



「本当の強さ」とは…

あなたにとって、大切な人は誰ですか。家族、友だち、先生。私たちには、大切な人がたくさんいます。大切な人と一緒に過ごす。笑い合う。そんな当たり前の日常はとても幸せです。

昭和二十年（一九四五年）八月六日 午前八時十五分。道に転がる死体。死体で埋め尽くされた川。「水をくれ。」「水をくდაさい。」という声。大切な人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や未来が突然奪われました。

あれから七十七年経ちました。今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。戦争は、昔のことではないのです。

自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。本当の強さとは、

違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはず。過去に起こったことを変えることはできません。しかし、未来は創ることができます。悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、平和な広島を創ってくれました。

今度は私たちの番です。被爆者の声を聞き、思いを想像すること。その思いをたくさんの人に伝えること。そして、自分も周りの人も大切にし、互いに助け合うこと。世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓います。

平和への誓い

この言葉は、広島「平和記念式典」で子ども代表により読み上げられた、平和への誓いです。

「過去に起こったことを変えることはできない。でも、未来は、私たちが創ることができる。平和な未来の実現のため、行動していくことを誓う。」という平和に向けての力強いメッセージが伝わります。

また、「戦争は、昔のことではない」という言葉は、戦争とは、今まさに自分たちが考え、行動し、解決していかなければならない最優先事項であることを再認識させてくれます。これは、長期化するウクライナ侵攻に対して、知らず知らずのうちに心が先細りしていく現状に、警鐘を鳴らしているようにも思えてなりません。

本当の強さとは

平和への誓いの中で、「強さ」についても言及されています。

「自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。」

本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、

思いやりの心を持ち、相手を理解しようとするということです。」

権力や武力を振りかざし、自分の思い通りに物事を進めようとする。これは決して「強さ」ではないと語られています。

現代社会では、特にSNS等での誹謗中傷が問題となっています。最近では、何か問題を起こした個人を、集団で再起不能になるほど追い詰めるという事例が後を絶ちません。確かに起こした問題が事実であれば、償うことは当然です。絶対に許されないこともありま。しかし、だからといって、私たちが、人間の尊厳を踏みにじつてもよいことにならないのでしょうか。もしかしたらこれらも、自分が正しいという思い込みにより、自分を正義と捉える、誤った「強さ」の使い方なのかもしれません。

違いを認め受け入れること、思いやりの心で理解することが「本当の強さ」であるなら、私たちの「つながり」こそ「強さ」であるとも考えられます。平和への誓いは、私たちが歩むべき道をも照らしてくれています。